# 学習の実際

第1次

1作品との出会い
・教師の範読。初めの感想を書く。　（1時）

学習に入る数日前から、家庭学習で音読練習を始めさせていた。長文なので、できるだけ、読む力の弱い子も引き上げておきたいと思ったからである。

第一時間目、私の朗読から始めた。すでに何度か読んでいる子どもたちに改めて作品との「新鮮な出会い」をさせたい、という思いをこめて朗読した。子どもたちは私の朗読を静かに聴き入ってくれていた。読み終わった後、しばらくはシーンとしたまま、誰も口を開かなかった。子どもたちの心の中に何かが充満しているようだった。

あらかじめ配っておいたプリントに初めの感想を書くように指示するとどの子も一斉に書き出した。いつもなら、何を書こうかとぼんやりしてしまう子が何人か出るのだが、この時の子どもたちは違った。書きたいことがはっきりとあるようだった。

初めの感想　　（名前　　）

①このお話を読んで、ごんというきつねをどう思いましたか

②心に残った場面を3つぐらい選ぶとしたら、どんな場面ですか。
また、そのわけも書いて下さい。

心に残る場面①

（そのわけ）

心に残る場面②

（そのわけ）

心に残る場面③

（そのわけ）

【子どもたちの初めの感想】

有香

ごんは、あたりの村でいたずらをやっているけれど、本当は、とてもやさしいきつねだと思う。

哲也

はじめは、いたずらばかりやっていたからわるいきつねだと思っていたけど、兵十のおっかあがしんでからやさしくなったから、ほんとは、いいきつねなんだなあとおもった。

祐子

いたずらずきだけど、ごんは、なんか人思いみたい。なにかしっぱいしたら、最後には、みんながよろこんでくれるようなことをしておわびをする。とてもいいごんだなあと思った。

衣利子

ごんは、いたずらっこだけど、人のことを思うとやさしくなるんだなあと思った。最初読んでいた時は、すごくいたずらをするなあと思ったけど、だんだん読んでいくうちに、本当は、ごんってやさしいだなあと思った。人の思いをわかるやさしいごんだなあと思う。

直也

さいしょは、兵十のことなんかきにしてなかった。けど兵十のおっかあがしんでから（かわいそうだ）と思いくりやらまったけやらをもっていってやったところがやさしいなあと思いました。ひなわじゅうでごんがうたれたところは、かんどうした。

邦臣

初めはいたずらばかりしていたけど、兵十のおっかあが死んだのでうなぎをぬすまなかったらよかったなとはんせいしている。ごんは、兵十がひとりぼっちになって、そのきもちわかるぞと思いながらくりなどを持っていった

公美

初めごんは、うなぎをぬすんで、ぬすみと思ったけど、兵十のお母さんが死んだのは、自分のせいだと思っていつもくりにまったけいろいろな物をあげた。

和樹
ごんはかってにぬすんでひどいやつだけど、（ごめんなさい）と思ってお礼をいうかわりに、くりをどっさりと兵十の家に固めて、おまけにまったけまで兵十にあげたから、はじめのほうは、やんちゃでいつもいつもいたずらをしているけど、やっぱりごんは、いいやつだなと思った。

中野洋志
はじめはいたずらぎつねたったけど、ほんとうは、やさしいきつねだ。

多喜なつ希
いたずらばかりでなく、思いやりのあるいいきつねだなあと思った。いたずらをしても最後は、やさしいいいきつね。そして加助に「神様におれいをいうがいいよ」といわれて、ごんは、それでもくやしがらずに、ごんは、自分が悪いと思ってくりを毎日のようにもっていってやさしいなあと思った。

【心に残った場面】

ごんがいたずらをする場面

・いたずらばかりして悪いなと思ったから（悟司・哲也）
・なんでうなぎをぬすんだのだろう。ぬすまなかったらいいのに（勝仁）
・なぜ見つかったらおこられたりするのに、なぜそんないたずらをするのかな。（大裕）
・「じれったくなって」の言葉がおもしろい。きいていてもおもしろい。
うなぎがくびにまきついたのも、おもしろかったです。（美由紀）
・そこの場面（まきついた）は、なんだかそうぞうしておもしろかった。（智昭）
・とってもひょうじょうがおもしろい。（優子）
（兵十はおっかけてはきませんでした。）
ごんなんかつかまえてもなんにもならないから、おっかけなかったと思う。
お母さんに食べさせられなくてどうしようとこまっているところがかわいそう。（智将）

ごんがあなの中で考えた場面
「あんないたずらしなけりゃよかった。」

・ごんがあなの中で兵十のおかあさんの事で反省したと思う。（有香）
・そこで、自分が悪いと思って反省をしていていいなあと思った（なつ希）
・兵十のお母さんが死んでしまってこうかいしているよう（朝子）
・ごんがおこられた兵十のおっかあが死んだとき、きゅうにやさしくなったからよかった。（由美子）
・ごんは、自分がちょっとしたいたずらでこんなことになって自分がこんなことをしなかったら、よかったと思ってたと思う。自分がやったことがゴンには、強く感じて何かをし

なくてはならないと思ったところがすごくやさしいなあと思った。（衣利子）
・兵十はお母さんにうなぎを食べさせたいというきもちがごんわかっていたらとらなかったと思う（優子）
・兵十のおっかあをころしたと思ってこうかいしているところがきつねとしてはよかった。（宣彦）

おれと同じひとりぼっちの兵十か

・「おれと同じひとりぼっちの兵十か」と言ったその時、ごんは、いっしょに楽しくすごしたいと思ったかもしれない。ごんは、それだけ兵十のことを思っているんだな。（祐子）

いわしをなげこんで

・ごんは、いたずらでやったのではないのでおこらないでほしいな。やさしいごん（美由紀）

次の日には、ごんは山でくりをどっさり拾ってそれをかかえて

・おっかあがしんで、しょくよくがないといけないのでたくさん食べるようにくりをもっていってあげたからよかった。（由美子）
・おわびをしようとしたけど、くりとかおみやげをあげようとしたから（和樹）

かわいそうに、兵十はいわしやにぶんなぐられて、あんなきず

・兵十がえらいめにあってごんはかわいそうにと思ったから。（智昭）
・こんなことをしてゴメンとあやまっているようだ（由美子）
・悪いことをしたなあと反省しているような気がするから。（明代）
・おれがいわしをぬすんで兵十におわびをして大成功だと思っていたら次の日にきたらいわしやが兵十にぬすまれたと思ってぶんなぐった。（宣彦）

次の日も、その次の日も
ごんが兵十の家にくりやまったけをもっていく場面

・すごくやさしいなと思ったから（悟司・哲也・洋志）
・やっぱりくりを置いていったというのは、ごんのやさしさだと思う。（朝子）
・とてもいいことをしていた。（紗織）
・ごんがいたずらをして、兵十のおっかあがしんだから、くりやまったけをあげたのでよかった。（宏）
・ごんは、兵十のうなぎをぬすんだことを悪く思っている。（明代）

・ここは、とてもごんは、兵十のおかっかあがうなぎをたべられなかってしんだから、
そんだけはんせいをして、いいやつだなと思った（政義）
・ごんが毎日まったけやくりをもっていってやるごんがやさしいと思う。（治武）
・きつねは、人を化かすというけど、このきつねは、心のやさしいきつねなんだなあと思った。

兵十がごんをころした場面

・かわいそうだったから（悟司・哲也・智昭・洋志）
・とてもごんがかわいそうだし、兵十もくりを見つけたとき反せいしたと思う。かわいそうだった。（有香）
・せっかくごんがくりをもってきたのに、いたずらをしたと思った兵十がにくたらしくなる。（なつ希）
・兵十はしらずにうったのでごんがかわいそう。（龍法）
・せっかくくりやらもってきてやったのに。（宏・治武）
・兵十もかわいそうだけど、ごんは、もっとかわいそうだから（優子）

今戸口を出ようとするごんをドンとうった。

兵十は、ごんがくりやまったけを持ってきているのをしらずにうった。（邦臣）

ごんはばたりとたおれました。

・兵十は、ごんのことを何も考えていなかったと思う。（勝仁）

「おや。」と兵十はびっくりしてごんに目をおとしました。

・今うってだれがくりやまったけを入れてくれているのかがわかった。しまったと思った。
・兵十は、ごんがいつももってきてくれているということをしらないでうったから、わるいと思った。（直也）

「ごん、おまえだったのか、いつもくりをくれたのは。」

・兵十もうったことをこうかいしてお母さんが死んだ時よりも悲しくなった。（朝子）
・そうとはしらずに火なわじゅうを向けてころしてしまったのでかわいそう（美由紀）
・いくらお母さんに食べさせるうなぎをにがされても、いつもくりやまったけをもらった神様の
ようなきつねを自分でうってしまったが、兵十もかなしかったから。
・なぜ兵十は、あたりを見なかったのか。（大裕）
・お前だとわからずうってしまった、すまないといっているように思える。かわいそうだった。（宣彦・和樹）
・この時、はじめ「またいたずらをしにきたな」と言ったけど、今「おだったのか」と

やさしい気持ちになったところが一番かんどうしました。（公美）

ごんはぐったりと目をつぶったままうなずく

・ごんは、あげようとしたけど、だめだったかと思って、おこられると思って目をつぶったままうなずいたと思う（和樹）

青いけむりがまだつつ口から細く出ていた場面

・なんだかとてもかわいそうな気がする場面（有香・勝仁・なつ希）
・兵十ははじめ、ごんのことをいたずらきつねだと思っていたけれど、とってもやさしいきつねなんだなあと思った。（明代）
・ごんといっしょに空に上がっていくように思ったから。（直也）